

1 関税について述べた次の文章を読んで、問1～問5に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて解答用紙A(マークシート)の所定の解答欄にマークしなさい。

関税とは、一般に、商品の輸出入に際して課される税である。その起源は古く、商業の発展にともなって関税の原型とみられるものが出現していた。

A 関税は、政府財政の収入源であるとともに、政府が輸出入に介入する手段でもある。政策や法令が輸出入に影響を与えることはしばしば見られ、ルイ14世に仕えたコルベールの重商主義政策や、B 19世紀前半のイギリスにおける穀物法などが挙げられる。江戸時代の名崎における統制貿易も、その一例と言える。

19世紀半ばの東アジアの開港に際しては、関税率の設定に関する取り決めが問題になった。C 中国は、開港と同時期に欧米諸国と条約を結んで以降、関税率を自由に決定できなくなり、また日本も、開港を取り決めた条約で協定関税を容認した。これにより、両国とも後に関税自主権の回復が重要な政治的課題となった。

第一次世界大戦後に開催されたD パリ講和会議では、新たな国際秩序のあり方が模索されたが、世界恐慌を契機として国家間の対立が激化し、経済のフロック化が進んだ。第二次世界大戦後には、その反省から、自由貿易を推進するE 「関税と貿易に関する一般協定(GATT)」が発足し、後に世界貿易機関(WTO)へと発展した。

問1 下線部Aに関連して、次の文章は、関税が一国の輸入に影響を与えるメカニズムについて理論的に示したものである。文章中の空欄(ア)～(ウ)に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、下の1～8の中から選びなさい。ただし、文章中で使われていない条件については一定とする。

解答は解答欄(1)に、その番号をマークしなさい。

A国は商品Xを輸入している。A国の政府が商品Xの輸入に対する関税の税率を(ア)と、輸入した商品XのA国内の市場における価格は(イ)。それにより、輸入した商品Xは、A国内の市場において、A国内で生産される同じ商品との価格面での競争で(ウ)になり、A国の商品Xの輸入量は減少していくと考えられる。

- 1. ア=引き上げる      イ=上がる      ウ=不利
- 2. ア=引き上げる      イ=上がる      ウ=有利
- 3. ア=引き上げる      イ=下がる      ウ=不利
- 4. ア=引き上げる      イ=下がる      ウ=有利
- 5. ア=引き下げる      イ=上がる      ウ=不利
- 6. ア=引き下げる      イ=上がる      ウ=有利
- 7. ア=引き下げる      イ=下がる      ウ=不利
- 8. ア=引き下げる      イ=下がる      ウ=有利

問2 下線部Bに関連して、穀物法をめぐる論争が起きるなど、当時のヨーロッパにおいては、政府による輸出入への介入について様々な主張が存在していた。イギリスの経済学者リカードと、ドイツの経済学者リストの、輸出入に対する政府の介入についての主張はどのように異なっていたか。リカードとリストそれぞれその経済に対する考え方に触れつつ、解答用紙B)の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

自由  
保護主義

問3 下線部Cに関連して、次の資料a, bは、中国とイギリスの間で行われたある地域をめぐる交渉に関する両国の政治家の回想と発言の日本語訳からの抜粋である(必要に応じて表現を改めた)。これらの資料を読んで、以下の①～③に答えなさい。

a  
9月22日水曜日朝、私は新聞先の東京から北京へと向かった。(中略)(ア)島自体はイギリス主権の領土だが、(ア)の残りの部分と同様、水やほかの生活物資に関しては大陸に依存していた。(中略)われわれの交渉の目的は、(ア)島の主権を引き換えに、将来かなりの期間、(ア)全体を引き続きイギリス政府が管理することを求めるといったものであった。これが、(ア)の政治家たちや経済界の指導者たちによく度も相対して得た結論で、これは彼らにとっても一番納得のいく解決法であった。

b  
これまで何回もくりかえしてきたように、中国政府が(ア)にたいする主権を回復した後も、(ア)の社会、経済制度は変わらず、法律は基本的に変わらず、生活様式は変わらず、(ア)の自由港としての地位、国際貿易・金融センターとしての地位も変わらないし、(ア)は引き続き他の国々に、地域との間で経済関係を維持し、発展させることができる。(中略)軍隊を派遣するのは、国家の安全を守るためであって、(ア)の内部問題に干渉するためではない。(ア)にたいするわれわれの政策は50年は変えない。われわれは言ったことは守る。

(資料出所はいずれも省略する。)

① この交渉の後、資料中の空欄(ア)の地域の所属と政治的な状況は、どのように推移したか。(ア)の地域の名称を明らかにした上で、2010年代における変化に触れつつ、【解答用紙B】の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

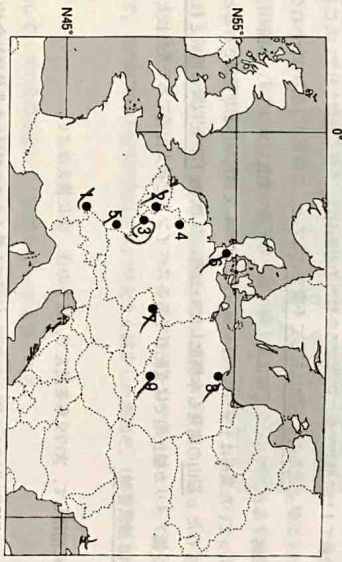
② 次の文章を読み、(ア)、(イ)に入る人物の名前として最も適当な組み合わせを以下の1～9から選びなさい。  
解答は解答欄(2)に、その番号をマークしなさい。

資料bの発言を行った(ア)は、文化大革命において資本主義の道を歩む修正主義者として批判されるなど何回か失脚したが、文化大革命後に復権し、國務院副総理(副首相)となった。(ア)が政治的な実権を握るなかで、中国において民主化運動が高まり、北京の天安門広場で学生や市民のデモが起ると、当時の中国共産党総書記は責任を問われて解任され、(イ)が後任に任命された。(イ)は後に、第5代国家主席となった。

- ア あ=周恩来 い=江沢民
- イ あ=周恩来 い=胡錦濤
- ウ あ=周恩来 い=趙紫陽
- エ ①. あ=鄧小平 い=江沢民
- オ あ=鄧小平 い=胡錦濤
- カ ②. あ=鄧小平 い=趙紫陽
- キ あ=鄧小平 い=江沢民
- ク あ=鄧少奇 い=胡錦濤
- コ あ=鄧少奇 い=趙紫陽

③ 波線部aの自由港とは、輸出入に際して関税を徴収しない港のことであり、港務部全体を指すこともある。資料中の(ア)とならび、自由港としてイギリスのアジア進出の拠点であったある地域は、1960年代に分離独立し、その後、急速な経済発展を遂げた。この地域の分離独立について、この地域の名称と、その住民の民族構成、および分離独立前に属していた国を明らかにしつつ、【解答用紙B】の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問4 下線部Dに関連して、同会議において調印されたヴェルサイユ条約では、ある地域について、15年間国際連盟の管理下に置き、その後、住民投票によって帰属を決定するとされた。その地域内に含まれる地点として最も適当なものを、下の地図中の1～9の中から選びなさい。  
解答は解答欄(3)に、その番号をマークしなさい。



備考：国境線は現在のもの。

問5 下線部Eに関連して、次の出来事a, bが起きた時期を、下の年表中の空欄1～5の中からそれぞれ選びなさい。  
aの解答は解答欄(4)に、bの解答は解答欄(5)に、その番号をマークしなさい。(重複使用不可)

5 a. 域内における国境を越えた人の移動の自由を認めるシェンゲン協定が発効した。  
3 b. ヨーロッパ自由貿易連合(EFTA)が成立した。  
960

- 944 ① フランスのシューマン外相が、石炭と鉄鋼業の共同管理に関する提案を発表した。  
2
- 952 ヨーロッパ原子力共同体(EURATOM)が成立した。  
3
- 962 ヨーロッパ共同体(EC)が成立した。  
4
- ヨーロッパヒト条約が締結された。  
5

II スペインによるアメリカの植民地支配について述べた次の文章を読んで、問6～問10に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて【解答用紙A（ワークシート）】の所定の解答欄にマークしなさい。

コロンブスによる「発見」を支援して以降、スペインはメキシコ以南のアメリカ大陸に積極的に進出した。先導したのは「征服者（コンキスタドル）」と呼ばれる人々で、彼らは金銀財宝を求めて探検の計画を練り、王からは許可だけを得て、自ら資金を調達し、新大陸へ渡った。彼らは数的に劣勢でありながら、A先住民の王国を打ち破り、以降3世紀にわたるスペインの植民地支配が始まる。

征服活動と並行して先住民統治の試行錯誤が始まったが、その初期段階においては実効的な試みも見られる。例えばメキシコに行政官として派遣されたバスコ・デ・タムボリは、私財を投じて先住民集落を作り、人文学者トマス・モアが『ユートピア』で描いた架空の理想社会の特徴を、新大陸において再現しようとした。土地を共有財産とし、全住民が同じ服装を衣服を着て1日6時間労働に従事するキロワの計画村は、うまく経営されていたことが知られている。しかしその後、本国スペインがC改米的な思想に対して不寛容になると、このような試みは行われなくなった。

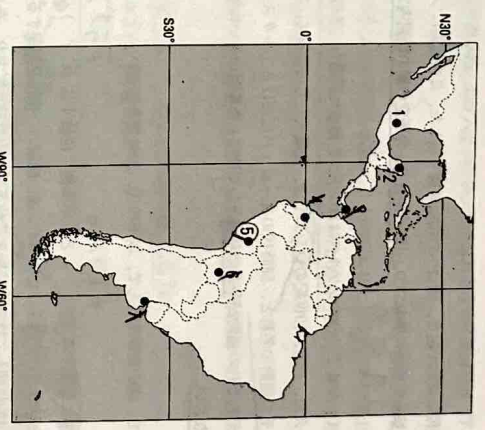
征服活動が一段落すると、スペイン王室は新大陸における王権の強化に乗り出す。本国の行政機構が導入され、それまで征服者らが担っていた業務は王室官僚の手に渡った。こうして植民地体制が整備されるとともに、メキシコおよびアンデスで発見されたD銀山の開発も本格化していった。なお、E17世紀以降に形成された北米地域の植民地とは異なり、スペイン領アメリカ植民地では支配者であるスペイン人と被支配者である先住民との間で混血と文化混同が進行した。

問6 下線部Aに関連して、次の文章を読んで、以下の①、②に答えなさい。

スペインによる侵略が始まった頃、中南米には王国を築くまでに発展した先住民社会がいくつが存在した。それらの内、アステカ王国の首都（A）は征服者コルテスによって、インカ帝国の首都（B）はピサロによって、それぞれ短期間のうちに占領された。一方、（C）を中心に栄えていたマヤ文明の場合、アステカやインカとは異なり小王国が多数存在していたため、征服活動は長期間に及んだ。スペイン人の到来後、約一世紀の間にD中南米の先住民人口は大きく減少したが、それを補うように黒人奴隷が運び込まれた。

① 文中の空欄（ア）～（ウ）に入る地名の場所として最も適当なものを、次の地図中の1～7の中からそれを選びなさい。

アの解答は解答欄 (6) に、 イの解答は解答欄 (7) に、 ウの解答は解答欄 (8) に、  
その番号をマークしなさい。（重複使用不可）



備考：国境線は現在のもの。

② 下線部aについて、この時期に中南米の先住民人口が大きく減少した要因を、【解答用紙B】の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問7 下線部Bに関連して、次の文章を読んで、以下の①～③に答えなさい。

『ユートピア』以降も、理想的な社会を構想し実現しようという試みや思想は、ヨーロッパで脈々と続いてきた。産業革命によって人々の間に、a経済的な格差が広がってゆくと、そうした潮流は力を増した。

この時期にイギリスやフランスでは、b複数の思想家が、労働を尊重するという点において方向性を同じくする理想社会を構想するに至り、かれらは「社会主義者」と称されるようになる。協同組合的な社会を構想したイギリスのフランクスの（イ）の思想は、無政府主義の源流の一つとなった。またおなじくフランスの社会主義者（ウ）は、1848年2月の革命後に成立した臨時政府にも参加した。

一方、βマルクスとエンゲルスは、（ア）らの思想を「ユートピア的社会主義（空想的社会主義）」と呼び、「ユートピア」という語に否定的な評価を与えた。

① 文中の空欄（ア）～（ウ）に入る人名として、最も適当なものを、下の1～9の中からそれを選びなさい。アの解答は解答欄 (9) に、 イの解答は解答欄 (10) に、 ウの解答は解答欄 (11) に、その番号をマークしなさい。（重複使用不可）

- 1. オーウェン
- 2. オコネル（オコネル）
- 3. コンユート
- 4. スペンサー
- 5. ソラ
- 6. トクザイユ
- 7. バルンシュタイン
- 8. ツルネボン
- 9. ルイブラン

② 下線部 a に関連して、19世紀前半から半ばにかけてのイギリスでは、選挙権や議員の資格などをめぐって、労働者たちも参加した大規模な運動が起き、議会への請願を繰り返した。この運動について、その名称と、選挙権および議員の資格に関する此の要求を述べつつ、解答用紙 B) の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

③ 下線部 b に関連して、マルクスやエンゲルスはロンドンを拠点に活動し、その思想はヨーロッパ諸国の社会主義運動に広く影響を与えた。一方、19世紀のイギリスでは、知識人たちによって、マルクス主義とは異なる社会主義運動が展開された。その運動の名称と、同時代のヨーロッパにおけるマルクス主義的社会主義運動と比較した際の特徴について、それぞれの運動が革命の基礎として期待した階級の違いに述べつつ、解答用紙 B) の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問 8 下線部 c に関連して、次の文章を読んで、以下の①、②に答えなさい。

イペリヤ半島の中部に位置する (ア) と地中海側に位置する (イ) という二つの王国が、それぞれの法制度を維持したまま結びついて成立したスペインは、国家の一体性を担保する要素としてカトリック信仰にこだわった。ただしその信仰に関してはある時期まで改革派が力を持っており、キロガの実験を後押ししたのはこの時代の開かれた空気であった。しかしひとたび保守派が支配的になると、スペインはいち早く思想や信仰の統制を強めていった。そのことは、宗教改革に伴う混乱を収束させるべく企図されながら、結果的にカトリック教会の教義の再確認の場となった (ウ) 公会議の決定に先駆けて禁書目録を作成していた事実にも見てとれる。またフェリペ2世統治下のスペインは、この公会議の決議をすまやかに受け入れた。

① 文章中の空欄 (ア) ~ (ウ) に入る王国名または地名を、解答用紙 B) の所定の欄に記入しなさい。

② 下線部 a に関連して、イギリスは (ウ) 公会議に関与しなかった。その背景となる、この公会議が開かれたまでにイギリスで生じていた宗教的状況の変化について、解答用紙 B) の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

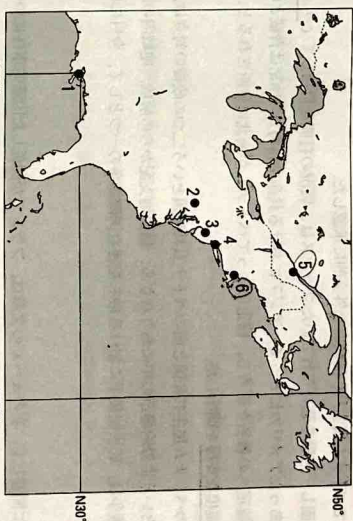
問 9 下線部 d に関連して、これらスペイン領アメリカ大陸の類は、16世紀後半から大量に中国に向かったことが知られている。この状況を可能にした新しい交通路について、それに関連するアジアにおけるスペインの植民地の成立と、航路が結んだ具体的な都市名に述べつつ、解答用紙 B) の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問 10 下線部 e に関連して、次の文章を読んで、以下の①、②に答えなさい。

北米地域では17世紀にフランスは (ア) を、オランダは (イ) を拠点にそれぞれ植民地を形成した。イギリスは英蘭戦争を経てオランダ領植民地を領有し、18世紀には七年戦争を経て領土を大きく拡大する。しかし後者が引き金となり、イギリス本国と植民地の根本的な対立が表面化すると、それまで相互に結びつきのなかった個々の植民地は共同して独立へと向かっていった。

① 文章中の空欄 (ア), (イ) に入る地名の場所として最も適当なものを、下の地図中の1~6の中からそれぞれ選びなさい。

アの解答は解答欄 [12] に、イの解答は解答欄 [13] に、その番号をマークしなさい。(重複使用不可)



備考：国境線は現在のもの。

② 下線部 a に関連して、次の資料は、イギリス本国の発したある法に対して、植民地側が合同で出した声明からの抜粋である (必要に応じて表現を改めた)。資料を読み、この声明が批判している法について、イギリス本国はこの声明の後どのような対応をとったか、法の名称および植民地側の主張と、その主張の背景にある、イギリス議会制度上の植民地の地位に述べつつ、解答用紙 B) の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

当議会のメンバーは (中略) 当該植民地の状況について時間の許す限り慎重に検討した結果、当議会の不可文な義務であると判断し、以下の宣言を行う。これは、植民地住民の最も本質的な権利と特権、ならびに近年の議会法により彼らが置かれている苦境に関し、謹んで我々の意見を表明するものである。

(中略)

3. 人民の自由およびイギリス人の権利たる権利にとって、不可欠にして不可分であることは、彼ら自身によって直接与えられた同意なしには、あるいはその代表者によって与えられた同意なしには、いかなる税も課されるべきではないことである。

(資料出所は省略する。)

III ベトナム戦争について述べた次の文章を読んで、問11～問14に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて【解答用紙A(マークシート)】の所定の解答欄にマークしなさい。

ベトナム戦争は、しばしば米ソ冷戦下における典型的な代理戦争の一つとして語られるが、その実態は単なる冷戦構造の枠に収まりきるものではない。

現在のベトナム社会主義共和国の領域は、かつてフランス領インドシナの一角を成していたが、第二次世界大戦中には日本軍が進駐し、日本とアンラオスの二重統治下に置かれた。

その後、日本の敗戦が確実視されると、植民地支配に対する怒りと独立への希求が高まり、ベトナム独立同盟会(ベトミン)の旗の下に結集した人びとは解放を求めた。この旗起には、ベトミンの武装勢力や共産主義者だけでなく、多様な人びとが参加した。彼らを結束させたのは、B民族自決という共通の理念であった。この「革命」は全国的規模で成功を収め、ベトナム民主共和国の独立が宣言された。

しかし、旧宗主国フランスはこの状況を認めず、インドシナ戦争が勃発した。戦局が長期化するなか、中華人民共和国とソ連が相次いでベトナム民主共和国政府を外交的に承認した。

この事態に直面し、苦戦を強いられていたフランスは、戦況の打開を目指してCアメリカに支援を要請した。東西冷戦のただ中にあったアメリカにとって、アジアにおける共産主義勢力の団結は脅威と映った。そのため、アメリカはジュネーヴ休戦協定への署名を拒否し、協定によってベトナムが南北に分割されると、ベトナム共和国へのD軍事・経済両面での大規模な支援を開始した。

こうして、北のベトナム民主共和国と南のベトナム共和国という二つの政権の対立は、長期におよぶ苛烈な戦争へと発展した。冷戦という世界的構図の中でありながら、植民地支配からの解放、地域内の政治対立といった要素が複層的に絡み合うこの戦争は、20世紀後半における最も複雑な国際紛争の一つとして、今日にいたるまで議論的であり続けている。

問11 下線部Aに関連して、次のa～cの文章は、フランスが関係した国際的事件について、イギリス議会でもなされた発言の一部を日本語に訳したものである(必要に応じて表現を改め)。資料a～cの発言が話題として出た出来事の時期を、下の年表中の空欄1～8の中からそれぞれ選びなさい。

a	の解答は解答欄 (14) に、	b	の解答は解答欄 (15) に、	c	の解答は解答欄 (16) に、
その番号をマークしなさい。(重複使用不可)					

3 今朝の新聞で、フランス政府がフランスヨダから撤退する決定を下したことについて、フランス議会と輿論が唱えられることもなく、またフランスの新聞でも否定的な論評を受けなかったと感嘆することができ、私たちは皆喜んで

b  
ドイツ大使が外務省を訪れ、次のような通告を行った。  
「モロッコ南部に拠点を置く幾つかのドイツ企業、特にアガテイルやその周辺の企業は(中略)従業員、生命と財産の保護を帝国政府に要請している。これを受けて帝国政府は(中略)軍艦をアガテイル港へ派遣することを決定した(中略)」  
私は(中略)ドイツ大使を再訪問す、(中略)我々の姿勢はモロッコについて無関心なものではありません。これを明確にしておかなければならないと言った。

c  
陛下の政府は、チェコスロバキアの総督(ペイン)に対する圧倒的な武力の行使のもとでフランスにより締結させられ、しかも「オーストリア帝国の不可分の一部」をおさめる総督であるペインがいかなる外国勢力とも条約を結ぶことを禁じた(中略)フェルマーンに違反する条約を認めることができるのか、このフェルマーンについて、陛下の政府は完全に承認していると表明しているのであるが。

(注) フェルマーン: オーストリア帝国の皇帝が発する勅命(資料出所はいずれも省略する。)

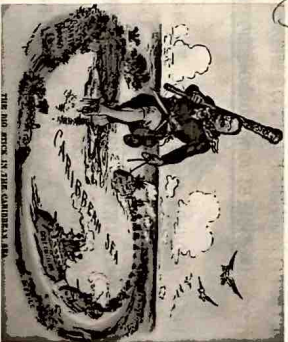
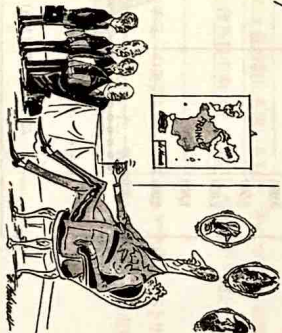
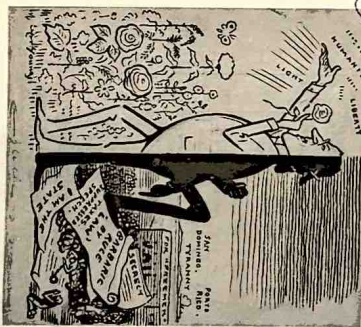
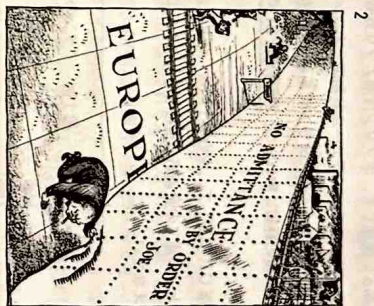
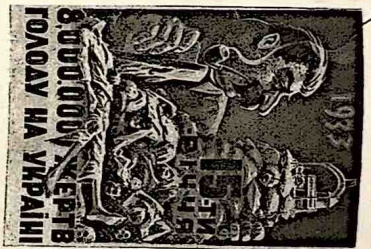
- 1911 シヤルル10世統治下のフランスがアルジェリアを占領した。
- 1912 スエズ運河が開通した。
- 1914 ベルリン会議の結果、コンゴ自由国が成立した。
- 1914 英仏協商が結ばれた。
- 1914 イギリスがエジプトを正式に保護国とした。
- 1918 イギリス・フランス・イタリアの首脳によるミュンヘン会議が開催された。
- 1918 フランスで第五共和政が成立した。

問12 下線部Bに關連して、次の文章を読んで、以下の①、②に答えなさい。

民族自決の思想は、帝國主義への抵抗の中から生まれ、様々な意味や解釈が付与されてきた。ある新政權の成立直後に発表された「(ア)」では、いかなる民族も、自らの國家の形態を完全に自由な投票によって決定する権利を有すべきであると明確に宣言されるとともに、西洋列強による帝國主義的支配が強く非難された。「(ア)」の思想的背景には、「ジョン・アトキンソン・ホブソンの『帝國主義論』をはじめとする、イギリスやドイツの政治経済學的著作からの影響があった。

その翌年に発表された「(イ)」では、植民地支配下の入びとの利益について、植民地宗主國の「正当な」要求と「同等の重み」で考慮すべきだとされるにとどまり、民族自決の原則については直接言及されなかった。その後、「(イ)」を発表した人物が民族自決という言葉を用いるようになったのは、第一次世界大戰後の國際秩序再編をめぐって、植民地の被支配民族にも、自分たちがどの西洋の國の統治を受けかを選ぶ権利があると主張する文脈においてであった。

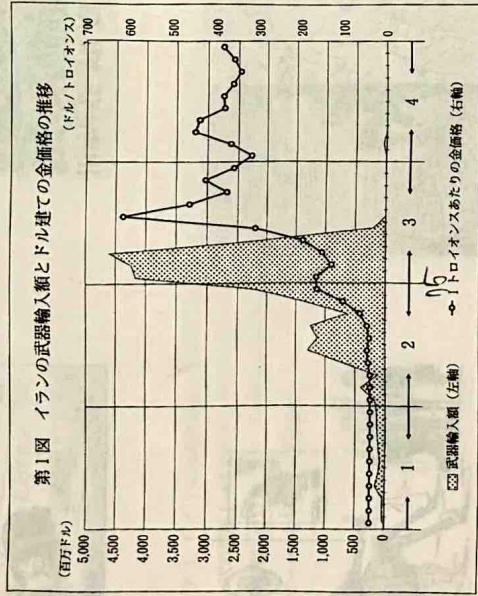
- ① 文章中の空欄(ア)、(イ)には和平構想の名称が入る。これらを発表した人物を主題に描いた風刺画として最も適當なものを、次の図版1～6の中からそれぞれ選びなさい。  
アの解答は解答欄 [17] に、イの解答は解答欄 [18] に、その番号をマークしなさい。(重複使用不可)



(資料出所はいずれも省略する。)

② 下線部 a に関連して、ホフブンは南アフリカ戦争を契機に帝国主義への批判を展開した。イギリスがこの戦争で侵攻したのは、トランスヴァール共和国とオレンジ自由国であり、そこには多くのオランダ系の人びとが暮らしていた。なぜ、これらの国にオランダ系の人びとが多く居住していたのか、アフリカ大陸南端部における植民地の成立とその後の経緯に触れつつ、〔解答用紙 B〕 の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

1965  
問13 下線部 C に関連して、次の第1図は、ベトナム戦争の時期を含む40年間におけるアメリカからのイランの武器輸入額とドル建ての金価格の推移を示したものである。図の横軸の1~4は、10年ごとの区分である。以下の①、②に答えなさい。



〔注〕 1 トロイオンス=31.1034768グラム。金価格はニューヨーク市場の価格。  
〔資料出所〕 Stockholm International Peace Research Institute (武器輸入額)、  
Measuring Worth (金価格) より作成。

① 第1図中の2の時期にドル建ての金価格が大きく変動しはじめる理由について、当時の国際通貨体制の変化に触れつつ、〔解答用紙 B〕 の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

② 下の a~d の出来事が起きた時期を、第1図の1~4の中からそれぞれ選びなさい。ただし、a~d の出来事が起きた時期が1の時期より前の場合は0を、4の時期より後ろの場合は5を選びなさい。

- a の解答は解答欄〔19〕に、 b の解答は解答欄〔20〕に、 c の解答は解答欄〔21〕に、
  - d の解答は解答欄〔22〕に、
- その番号をマークしなさい。(重複使用不可)

- a. イラン=イラク戦争が停戦となった。
- b. 首相となったモサデグ (モサッダグ) のもとで、イランの石油産業が国有化された。
- c. 第一次石油危機が起こった。
- d. ホメイニが帰国して、イラン=イスラーム共和国が成立した。

問14 下線部 D に関連して、次の文章中の (ア) ~ (ウ) に入る地名の場所として最も適当なものを、下の地図中の1~9の中からそれぞれ選びなさい。

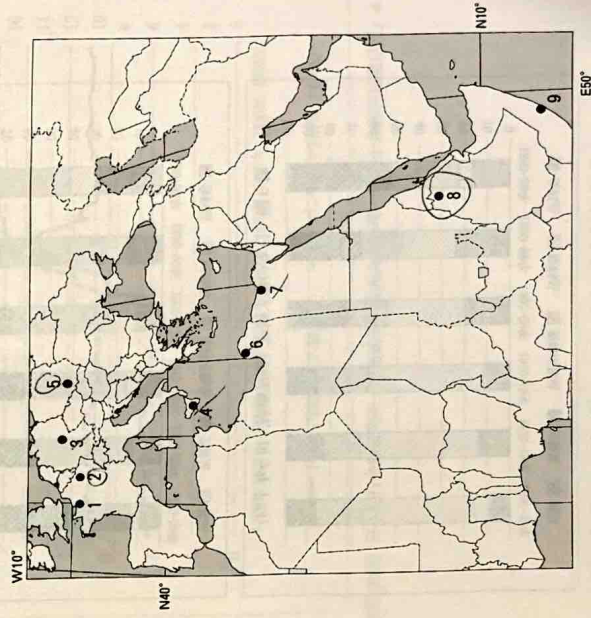
アの解答は解答欄〔23〕に、 イの解答は解答欄〔24〕に、 ウの解答は解答欄〔25〕に、  
その番号をマークしなさい。(重複使用不可)

ベトナム戦争でまかれた枯れ葉剤は、戦後も深刻な影響を及ぼし、化学物質が人間の健康と環境に対していかに脅威となりうるかを浮き彫りにした。化学物質が本格的に戦争に利用されるようになったのは第一次世界大戦のことである。ドイツ軍が塩素ガスを投入したのをはじめてとして、各国はより毒性の強いガスを使用し、無数の兵士を死傷させた。同大戦で最も長期にわたり消耗戦が繰り返された激戦地 (ア) では、フランス軍・ドイツ軍の双方が毒ガスを大規模に投入したが、フランス軍が使用した窒息性のホスゲン (B) は多くの死傷者を出し、戦場の空気をそのものを脅威に変える兵器となった。

その後、毒ガスは列強の植民地の拡大にも利用された。後に国際連盟がイタリアに対して経済制裁を宣言する契機となった侵略戦争において、ムッソリーニのイタリアは、(イ) をはじめてとする戦場で毒ガスを使用し、戦いを優位に展開した。

さらに、第二次世界大戦においては、毒ガスは、民間人の大量殺戮にも用いられた。ホロコーストの象徴であり、最大の犠牲を生んだ (ウ) 強制収容所では、シアン化物系殺虫剤ツィクロン B が殺戮の手段とされた。その成分はもともと害虫駆除に用いられていたものであった。

化学物質はまた、長期にわたり大地を汚染した。現在ホーチミンの近郊にあるビエンホア空港は、ベトナム戦争中、アメリカ軍の中核的な拠点の一つであり、大量の枯れ葉剤が保管されていた。戦闘の中でそれらが流出し、一帯の土壌と水系は深刻なダイオキシン汚染にさらされた。



備考：国境線は現在のもの。

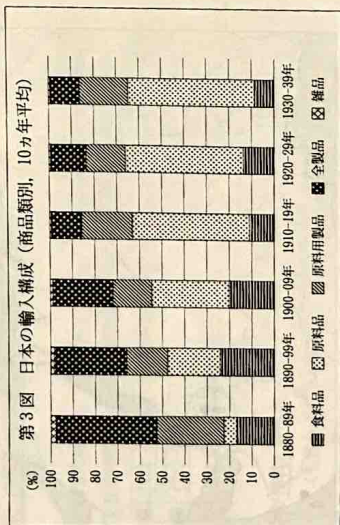
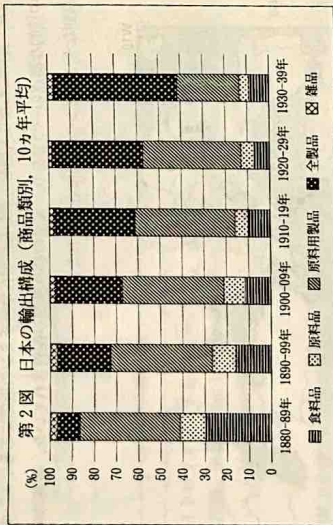
IV 次の文章を読んで、以下の問15、問16に答えなさい。解答はすべて〔解答用紙B〕の所定の欄に記述しなさい。

慶應みらい君は、明治期から第二次世界大戦勃発までの日本の貿易について関心をもち、いくつかの資料を見つけ、また統計から図を作成しました。みらい君は、これらの資料と図から何が読みとれるのか考えてみることにしました。皆さんも一緒に考えてみましょう。みらい君は、慶應義塾大学経済学部に入學したら、先行研究をもっと読み、日本内外の史料やデータを集め、統計的手法も学んで、この問題についてさらに深く考えてみたいとワクワクしています。

問15 みらい君は、資料a（必要に応じて表現を改めた）と第2図、第3図から、日本の明治期から第二次世界大戦勃発までの輸出入品の構成の変化は、同期間の日本における産業の構成の変化と関連していると考えました。あなたは、みらい君がどのような関連を読みとったと考えますか、第2図と第3図の関係をデータの推移に具体的に触れつつ、〔解答用紙B〕の所定の欄内で記述しなさい。

a  
(前略) 商工省がこの程調査せる世界主要国の輸出及び輸入貿易構成比の比較は時節特に注目される、即ち1935、6年の兩年及び最近五年平均における英、米、独、仏、日の貿易構成を比較すると1935年度において我國の輸出構成においては全製品の占む割合五分一厘となり、独、英、仏に次ぎ工業国への関連を示しているが(中略) 原料品の輸入は輸入総額の八割を占め綿花、羊毛、鉄、原油、ゴム等工業原料の大半を海外に依存している(後略)

(資料出所は省略する。)



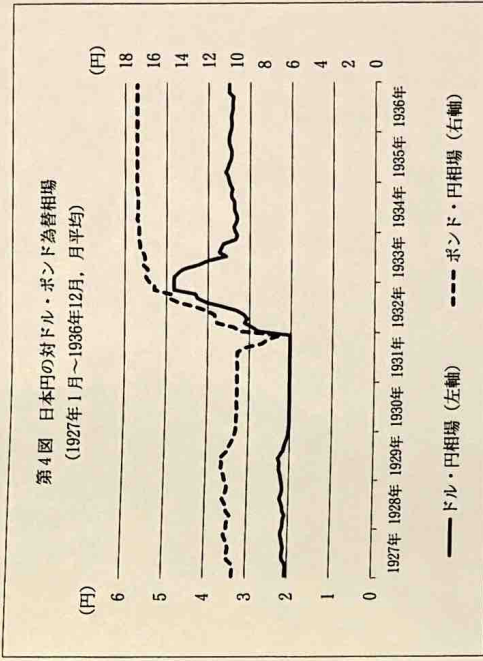
(注) 10年間を平均した1年間の輸出入額の比率。朝鮮・台湾・南樺太との移出入額を含んでいない。  
「原料用製品」は加工された原料品、「全製品」は完成した製品を指す。  
(資料出所) 『明治以降本邦主要経済統計』より作成。

問16 みらい君は、問15での考察を踏まえて、明治期以来の日本の貿易相手に関心をもち、以下の資料b（必要に応じて表現を改めた）を見つけ、そこに記されている通商交渉についてさらに調べてみました。すると、波線部aの日本とインドの貿易における変化は、第4図に示された日本円の為替相場の変動と関連していることに気づきました。これについて、あなたは、みらい君がどのような関連を読みとったと考えますか、通商交渉の背景となる日本とインドの貿易における主な輸出入品を明らかにした上で、日本円の為替相場の変動をもたらした日本政府の政策と、それが日本の輸出品の輸出先における価格動向に与えた影響に触れつつ、〔解答用紙B〕の所定の欄内で記述しなさい。

b

1933年4月11日印度政府は突然何等の予告もなく、日印通商条約放棄の声明を行い、翌日には印度立法会議において、ダンピング防止法案を通過せしめ、これにより6月7日イギリス品以外の綿布には、七割五分というほとんど禁止的高関税を課して、徹底的に日本品排撃の舉に出たのであります。(中略) 我日本は印度より毎年莫大なる綿花を輸入しておりまして、(中略) 然るに、a 僅か二、三年日本の品物が多く這入るようになったからといってかかかるといふことは、常識上解し難い事でありまして、(中略) 日本政府と致しましても直ちに嚴重抗議致し、改めて通商會議を開催する事になり(後略)

(資料出所は省略する。)



(資料出所) 日本銀行金融研究所「歴史統計 外国為替相場・横浜正金銀行建電書」より作成。